



協働空間=アジア:1990-2020

古市保子

1990年以前、アジアの美術をめぐる拠点は点と点が存在したのみであった。それは第2次世界大戦後、お互いの視線が交わることなくアメリカ、ヨーロッパに向いていたからである。それが変化するのには1989年ベルリンの壁が崩れて東西冷戦状況が崩壊した90年代はじめであり、アジア各国の美術が相互に認知され始め、点が線になってつながり始めたのが90年代と言えよう。さらに、その状況を激変させたのはインターネットと交通手段の発達で、2000年代に入ると世代交代を伴うネット時代の到来は、国境を軽く越え、アジア全域に広がって美術交流は線が面となっていった。また多様なメディアの表現手段はアートの領域をも広げた。全体が相互依存を高めながら、「アジア」という空間を作りだしていく。この30年間、様々な担い手が現れ、様々な活動や表現を通じて、この空間を創造してきた。近年経済発展の優等生とも言える東南アジア各国では美術制度の整備が進み、域内における美術の中心はこの30年間に確実に移動し続けている。2020年代に入った現在、どのような担い手がどのような活動を通じて私たちに驚きと感動の世界に導いてくれるのであろうか。



「アンダー・コンストラクション：アジア美術の新世代」アーティストとキュレーター集合写真、2002年